

ワクチン新聞

令和2年 早春号

発行：田辺三菱製薬株式会社 大阪市中央区道修町3-2-10

TOPICS

● 小学校入学までに受ける予防接種

監修：川崎医科大学小児科学教授 中野 貴司 先生



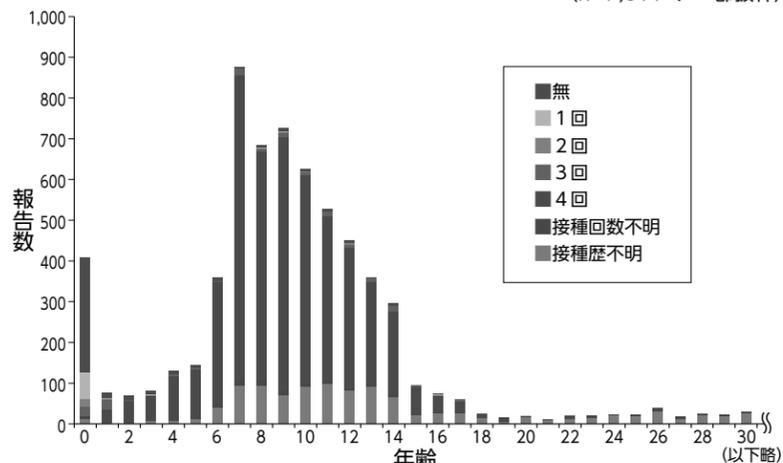
小学校入学までに受ける予防接種

小学校への入学準備の一環として、これまでに定期接種として定められた予防接種をすべて受けているか確認しましょう。母子健康手帳にある予防接種記録のページを見返して、接種したワクチンの種類と回数をチェックしましょう。例えば2020年4月に小学校に入学するお子さんの場合、小学校入学までの定期接種ワクチンは、Hib（ヒブ）、小児用肺炎球菌、4種混合（DPT-IPV）、BCG、日本脳炎、MR（麻しん・風しん混合）、水痘です。それぞれのワクチンに定期接種となる対象年齢が決められており、期間内は費用の自己負担なく接種できます。ワクチンを接種すると体に免疫の記憶が残り、いざ病原体が体に入ったときに免疫が早く働いて病気を防いだり、かかったとしても軽い症状で済みます。受けそびれたまま、定期接種の時期を過ぎてしまったワクチンはありませんか？定期接種の対象年齢から外れてしまっても*1、接種が勧められるワクチンがあります。かかりつけの医師に相談してみましょう。

2020年4月から小学校に入学するお子さんは、2020年3月31日までにMR（麻しん・風しん混合）ワクチンの定期接種を済ませましょう。第2期の定期接種は5～7歳未満で小学校入学前の1年間（就学前年度4月1日～3月31日）です。2020年3月

31日を過ぎた場合は、任意接種となります。加えて、下のグラフのように百日せきにかかった人の多くが小学生であったことから、小学校入学前に3種混合（百日せき、ジフテリア、破傷風）を任意接種で受けることが日本小児科学会より推奨されています（同様にポリオ、おたふくかぜも入学前の任意接種を推奨）。
*1 定期接種の対象年齢外でワクチンを接種する場合は、任意接種となり、費用は自己負担です。

百日せき症例の年齢分布と予防接種歴（2019年第1週～第26週）
(n=7,611*、一部抜粋)



*百日せき 感染症法に基づく医師届出ガイドライン初版に則った症例に限定
国立感染症研究所：全数報告サーベイランスによる国内の百日咳報告患者の疫学（更新情報）
- 2019年疫学週第1週～26週 -
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/pertussis-idwrs/9086-pertussis-190913.html>

2020年4月に小学校に入学するお子さんが小学校入学までに受ける定期予防接種の種類と接種回数

ワクチン	予防対象となる感染症	第1回	第2回	第3回	第4回
Hib（ヒブ）	Hib 感染症（細菌性髄膜炎、喉頭蓋炎など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小児用肺炎球菌	小児の肺炎球菌感染症（細菌性髄膜炎、敗血症、肺炎など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4種混合（DPT-IPV）	ジフテリア、百日せき、破傷風、ポリオ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
BCG	結核	<input type="checkbox"/>			
日本脳炎	日本脳炎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
MR（麻しん風しん混合）	麻しん、風しん	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
水痘	水痘（みずぼうそう）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

そのほか主な任意接種ワクチンとして、3種混合（追加接種）、ポリオ（追加接種）、おたふくかぜ、B型肝炎（現在は0歳児に定期接種）などがあります。

ワクチン質問箱

質問

MR ワクチンは、なぜ定期接種を2回行うのですか？

回答

MRワクチンの1回目の定期接種を受けた子どものうち、95%以上は麻しん・風しんに対する免疫を得ます*2。しかし数%の人は、1回目だけの接種では、十分な免疫を得ることができずと考えられています。2回目の接種を受けると、99%以上の人が免疫を得ることができるとされています*2。確実に免疫をつけるために、2回接種が推奨されています。

*2 日本小児科学会：日本小児科学会の「知っておきたいわくちん情報」No.16 麻疹・風疹ワクチン

感染症Q&A

Q

みずぼうそうにかかる子供は減っているのですか？

A

みずぼうそうは、かつては90%以上の人が10歳までに発症する（発症年齢のピークは4～5歳）*3 代表的な子どもの感染症のひとつでした。2014年から生後12～36か月の子どもを対象に水痘（みずぼうそう）ワクチンの定期接種が始まると、1～4歳と0歳児を中心にみずぼうそうの患者数が減少しました*4。みずぼうそうは、ワクチンで発症のリスクを減らすことができる病気です。

*3 予防接種部会ワクチン評価に関する小委員会水痘ワクチン作業チーム：水痘ワクチン作業チーム報告書
*4 国立感染症研究所：水痘ワクチン定期接種化後の水痘発生動向の変化～感染症発生動向調査より・第3報～（2017年9月1日現在）

ミニコラム

出席停止になる感染症

麻しん、風しん、みずぼうそう、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、百日せき、おたふくかぜ、インフルエンザ、咽頭結膜熱などは、感染者から周囲の人へ感染が広がって流行する可能性があるため出席停止になり、登園・登校は控えることが学校保健安全法で定められています。治癒して再登校するときは、学校へ「治癒証明書」の提出を求められることがあります。



>> 年6回の発行を予定しています（次回は2020年4月発行予定） ワクチン新聞のバックナンバーは、ワクチン.net (<http://www.wakuchin.net/index.html>) からダウンロードできます。

